

## 学位論文審査の結果の要旨（課程）

学位論文審査申請者氏名	鐵 慎太郎
学位論文名	変更前 異なる空間スケールからみた海岸植生の植物種多様性の維持機構の解明 変更後 異なる空間スケールからみた岩石海岸植生の植物種多様性の維持機構の解明

学位論文審査終了年月日	学位論文審査の結果
令和 5 年 1 月 10 日	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 10px;">合 格</span> ・ 不 合 格

学位論文審査の結果の要旨は次ページ以降（別紙記載要領により作成のこと。）

学位論文審査委員	主査（自署） <span style="font-size: 1.2em;">吉川 正人</span>	副査 <span style="margin-left: 20px;">戸田 浩人</span>
	大久保 達弘	佐藤 達雄
	宇野 裕之	星野 義延 （東京農工大学功労教員）

※平成 28 年 10 月入学    環境資源共生科学専攻    環境保全学大講座 R2. 3. 31 満期退学	
学位論文審査申請	令和 4 年 12 月 1 日
学位論文審査委員の選出	令和 4 年 12 月 12 日
学位授与の可否の議決（可・否）	令和 5 年 3 月 1 日

## 学位論文審査の結果の要旨

鐵 慎太郎

本研究は、東日本太平洋側の岩石海岸の植生における種多様性の維持機構について、地理的スケール、地形的スケール、群落スケールという3つの異なる空間スケールから総合的に明らかにしたものである。地理的スケールでは、温度環境に加えて乾燥や海水飛沫といった海岸特有の環境ストレスの低減にともなう非海岸性の種の増加が植物群落の種組成の緯度的な変化に関係していることを明らかにした。地形的スケールでは、三陸北部と三浦半島の2地域を対象として、微地形や陸域からの淡水供給がもたらす立地の多様さが群落タイプの多様さに寄与していることを明らかにした。群落スケールでは、葉フェノロジーを主とした機能特性の種間差が同一群落内での時間的すみ分けを通して同所的な共存を可能にしている可能性を指摘した。これらはいずれも、従来の研究では言及されていなかった新たな知見であり、海岸植生とその種多様性の保全のための重要な科学的基盤を提供するものと評価された。なお、研究対象が明確になる論文名とすべきとの意見に基づき、タイトルを「異なる空間スケールからみた岩石海岸植生の植物種多様性の維持機構の解明」に変更した。

以上のように、本論文は多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。